

第 4 回 宇治市都市計画マスタープラン検討部会 議事録

日 時	令和 2 年 12 月 2 日 (水) 午後 5 時 00 分 ~ 午後 7 時 40 分
場 所	宇治市役所 5 階大会議室
出 席 委 員 (敬 称 略)	部会長 多々納 裕一 職務代理者 森 正美 委員 岡田憲夫、野田崇、山本直彦、小出純子、後藤正明
議 題	1. 全体構想 (原案) について 2. 市民参画の手法について

会議概要

部 会 長	「全体構想 (原案) について」、「市民参画の手法について」事務局より説明を。
事 務 局	資料説明
部 会 長	ただいまの説明について意見・質問等あれば。
委 員	年少人口の状況という資料で、人口ビジョンと社人研の推計値の差が非常に大きい。これだけ差異が出ているということで、今回の都市計画の視点の中で、人口増を図るために何かをするという具体的な施策のところと直接反映するようなものが項目としては出てこない。どこが関連しているのか。「総合創生戦略」に若い世代の就労、結婚、出産、子育ての希望をかなえる環境づくりというのはあるのはあるが、子育て福祉的なものと、教育支援みたいなもの以上のことがあまり書かれておらず、就労場所の確保というところで対応していくということになるのか。データ自身の根拠に関するところと、このギャップを埋めるのにどういう施策を取るといふふうに考えているのか。
事 務 局	人口ビジョンの中には、社会移動 0 というのと、人口の出生率が国のビジョンに準じておりまして、2060 年に 1 億人の人口維持をするということで出生率を上げていくという国の基準が示されておりますので、その基準に則って算出しております。
委 員	人口ビジョンは具体の内訳のところの話を議論しないと分からない。社人研の社会移動率でプラスが出ている年代というのは、実は 15 歳から 20 歳のところだけ、それ以外はマイナスが出ている。0 歳から 14 歳のところが顕著に減少率が他の年代に比べて大きいといふふうには見えなかったのですが、ここの計算は住民基本台帳ベースでやりましたか。それとも国勢調査ベースでやりましたか。
事 務 局	今回の資料は、2020 年の 10 月 1 日の住民基本台帳をベースに 2040 年にどうなるか推計した。
委 員	住民基本台帳は必ずバイアスある。大学生を抜かないのでそこは顕著に出てくる。宇治市の場合、15 歳から 20 歳のところは転入超過ということは大学生で入ってきている。それ以外の所では転出超過ということは違う所で働いているかもしれないということです。

委員	<p>これまで議論してきたその前提として、成長型から成熟型と、あるいは拡大から質というのが前提で書いてあって、これからの計画の視点のところにきれいにまとめていただいたので、今われわれが持っている問題意識はここに書いてある。ただ、その下の 2-5 にいくと、現行のマスタープランにはめ込んでいる形なので、やっぱり違うんじゃないのかなと思います。特に成長型から成熟型へとかですね、その辺の話が見えてこない。</p>
委員	<p>前半部分が全体構想案の原案ですが、ちょっと接続がうまくいっていない感じですね。まだ前のものをそのまま付け足しましたみたいな感じになっているので、多分最初言われた問題意識と比べると、何か小ぶりの修正になっている感じがする。多分整理が要ると思うんですよ。そこについてもう少し議論をしていければと思いますし、全体構想はそのところの確認をしていきたいと思います。少しスクラッチからやらないといけない。</p> <p>12 ページの下、主な策定の背景は、後ろに背景、基本理念、基本姿勢があって、基本理念と基本姿勢は前のままですよ、後ろとつながっている。多分ここにこう書くぐらいだったら、最初からこの部分を後ろの章立てに活かしたらいいかなというご意見だと思うんですけど、そうやって見たときには、下の、ぐらいはまだそういう感じだけど、最初のやつはもう少し大きいですよ。</p>
委員	<p>基本目標は最終的には部門別に絡んでくるという一覧表が現行のマスタープランにあるので、いずれは部門別に今議論していくのが整理されて、都市計画のそれぞれの部門別方針に反映されていくということを頭に入れつつ、これからの議論を進めてはどうか。</p>
委員	<p>現行の 25 ページって、縦軸横軸みたいな大きな枠と項目の話をしているので、議論を資料に整理していただいて、これからの都市計画の視点という から までまとめていただいたところまでは、何となくみんないいんじゃないかなという合意ができていいのかと思った。下の箱の中身まではそもそもそこに書いていていいのかまで話をしてないので何かこの 4 つの大きな枠っていうか、4 番取りあえずこれで視点がいいか合意して、そこからさっきのホワイトボードで、その中でそれぞれ何が入るかっていう現行 25 ページでいったら横軸みたいなところの話になるのかなと思った。</p>
部会長	<p>だけは少し大きいので、これは 12 ページとか、総合計画との調整を図って、これはここの背景は全部入れてもいいのかもしれないけど、ただ、それ以外の っていうのは、実は後ろの項目で取り上げているような基本目標みたいなのに近いんですよ。この基本目標に対してどういうものを入れるべきかという議論でいったら、まちの拠点の役割・連携とか、ネットワーク型のまちづくりみたいな議論が 1 つあります。それからもう 1 つは、災害リスクを踏まえたまちづくり、宇治らしさを活かした選ばれるまちづくり、この 3 つは項目に立てておいたらいいじゃないですか。</p> <p>現行の項目で落ちるところがあるとか、あるいはまとめないといけないところがあれば、そこを修正していくという議論をしたほうがいいのかも说不定。前のものは対応するものがありますから、ここに入っている項目については、表に対応付けられる。だから、新しく入れたやつだけが対応の付け方を考えなきゃいけない。並び替えたほうが、多分メッセージがストレートに伝わると思う。ただ、もう 1 個は、大きいやつ 1 番を取りあえず外しましたが、成長型から成熟型へとかいうところの中身を書いている、多様な住まい方・働き方を支えるま</p>

	<p>ちづくり、これは大事な言葉だと思います。これがどういったところでこれが実現するんのか。この次の図は分かりにくいんですけど、中長期的な視点、短期的な視点での個々の都市計画の整合と書いてある。これは何のことか分かんないんですけど、この点がどんなところに入っていきべき内容を言われているのかということだと思います。ある程度明解にいくんじやないかなと思いますけど、まず は順番はこれでいいですか。 とか、 とか、 とか、 どういうのが一番いいですか。</p>
委員	<p>全体の構成のおおむね特徴付けるのであるならば、 の分だけが大きな目標、大きな視点なのかどうかというところによって、以下の展開が全部変わってくると思う。</p>
委員	<p>基本的には前のものを全部踏襲した上で、追加すべきものはこれだって言っておられるので、恐らく悪くはない。ただ、並べ方とかによって、コンセプトの見え方、この前段の見え方が変わってくると思うので、そのところをまず今の 3 つのところから見たときに、入るやつ、入らないやつを整理すると、恐らく入りきらないものがあつたらもう 1 個別にしなきゃならないとか、あるいはそこだけ見て足りないと思ったら、もっとこの中で言わないといけない、となると思うので、まずその整理を試してみませんか。</p>
委員	<p>1 番の成長型から成熟型っていうメタなフレームワークがあって、その中に柱を立てる話をしないとけないのに、何か具体項目にもう落とし込まれているので、何かせつかく議論してきたことが全然方向性の展開になっていない感じになっているのが気になるので、何かそもそもその柱立てとして多様性とか、持続性とかっていうことを入れた柱をもう 1 個足して、全部取り替えたらいいんじゃないか。</p>
委員	<p>確かに次にもう 1 つ間に入れる、多様性というのものもあるし、しかし、前々から私は少し気になっていたのだが、本当はいわゆるサステナビリティって言われているのは、今ここで言われる狭い意味の持続可能、持続性だけでなく、それこそ多様性だとか、参加だとか。いろんなものが 17 項目に入っているんで、だからそんなふうに見るのか。それがいわば生活の質も含めて持続可能性とか、成長も違う意味の成長を目指す時代で地域を含めていくというのはどういうことなんだという見立てをするなら、これにもう一つそういうものを何か重ねて、そして一種のマトリクス的に出してきたものからこっちに持っていく。これは難しいけど、実は多分そういうことが問われている。</p>
委員	<p>別にスクラッチでここで付箋使ってやってもいいですけど、だけど、できたら取りあえずのところ、原案が作れていくほうがいいかなと。</p> <p>SDGs はどうなるっていう議論とかと多分関連していきますけど、それぞれがどこまで SDGs に関係するんだっていう議論を、最近のいろんなところの文章はそんなの書いてあるとしますね。そういうものがあってもいいかもしれないけども。ただ、もう 1 個ここで議論してきたことは、最初のミッションで出された話で、実は都市サービスの水準っていう議論をしているんです。質という議論をしているというのは、実は成長から成熟型っていったときに何をしているかといったら、要するに小さくなっていてもキープできるべき都市のサービスが何なのか、生活の質の違いがどうなるのか。そういった状況の中でまちのありようを将来に向かってどう作っておくか、そういう視点で計画を見ましょと大きい意味でも言っている。</p>

	<p>成長型から成熟型のまちづくりへの転換と書いたところの中にあたり、あるいはその後の目標年次とか、あるいはマスタープランの16ページの、循環的なチェックの仕方みたいな所で書いてあったりするけど、そういった中で多分そういうクオリティーがどう変わってきたのか、どこに課題が生まれてきたかみたいなものをちゃんと調べながら、地域の方と議論していきますみたいな話が組み込まれているべきだというようなメッセージが、どっかに多分要るのですよ。これはさっきの成長型から成熟型のまちづくりというところの全体をくくる言葉の中に入ってくるし、そこがまさに関係するのだと思う。だからそれは外側にちゃんとないといけない。1個ずつの項目のところはもうこの4つで取りあえずいくとしたら、これで取りあえず始めさせてもらって、整理を始めないと間に合わないかなと思うから。</p> <p>ネットワーク型のまちづくりのところは今のやつは整理して入るとするとどうなりますか。まず1個目のところで行くと、豊かな自然をいつまでも未来につなげるまちづくりの無秩序などこの、無秩序なのはいいとして、豊かな自然を保全し、身近なみどりを守ります、宇治らしさですね、これ身近なみどりだけいいですよ。宇治らしさに、そこにおる人にとって宇治らしさ。1は、これはだから前のところの項目の1-1ですね。</p>
<p>委員</p>	<p>人にやさしく、環境にやさしい交通体系はネットワークですね。歩くことが楽しくなるは、これは実はちょっとイメージが違う。本当は拠点化のネットワークとか、ネットワークで補完するとか、そういうイメージをここに書いたほうがいい。交通体系整備ではないんですよ。地域で補完しますということと言わなきゃいけない。移動可能性を担保するということ。</p>
<p>委員</p>	<p>どこかにスーパーあるけど、バスで行けますとか、歩いていけますとか、いつもどこそこにあるわけじゃないですよとそういう議論です。むしろ「まちの拠点の役割・連携による生活利便性の維持・向上をめざします」が多分一番重要で、その次が、「宇治らしさを活かした選ばれる都市づくりをめざします」で、「人にやさしく、環境にやさしい交通体系を実現します」が2番目で、3番目に「歩くことが楽しくなる歩道のある都市づくりをめざします」ではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>市民と協働連携っていうのも本当はきちんとしなきゃならないんだけど、これもある意味でサステナビリティの1つである17項目の一番最後のパートナーシップ。この選ばれるというのは、広く言えば住んでいる人を含めて、そこに参加して、そしてまちを整えていくのに参画しているという、そういう意味合いもあるんですけども、ただ、何でパートナーシップが必要なのか、これからの成長型から成熟型の社会に持っていくときに、宇治市が目指す1つの特徴的アプローチは何だろうかということ。そういうことを言い当てる部分だと思うんですよ。</p> <p>まだもう一つ本当は何となくはっきりしていないのは、実は前回も既にそうだったが、あえて参加型でやります、とした。あれはいろいろ難しい問題もあったが、参加型でやった。今回も参加型をうたっている。何で参加型をやらなければならないのかということに関しては、実はやっぱりこの成熟型社会のある意味で最初に掲げる大きな視点の1つの流れとして、宇治らしさというのも踏まえると、やっぱりパートナーシップだろうという話が出てくるのではないかな。宇治らしさの一番下のところにパートナーシップに基づくまちづくりとか、パートナーシップを活かしたまちづくりとかを入れましょう。</p>

委員	<p>構成立てで、目標を実現する中で、特に基本姿勢としてパートナーシップとか、市民の対話っていうのが書いてあるので多分これも引きずられていて、パートナーシップの部分というのが、視点や目標のところから外されてしまっているのがちょっと問題で、20年前とかは視点や目標を持って市役所が頑張れば、それを市民と対話してやっていきたいと思いますということを手段として使うっていうのはよかったと思うんですけど、今、多分こっちの重みがちょっと上がっていて、視点や目標レベルでもう既にこういうものが入ってくるべきという意味で、多分目次立てが変わるかと思いました。</p>
委員	<p>この前後にさっきのガバナンスの話だとか、方針の話とかが出てくるから、全体としてはこの上とか下とかに出てくると思うんですが、ここは個別のところだから、これが多分まずコアになると思っているんですよ。ここの中にパートナーシップを入れておくというのは賛成なんですけど、そのレベルでいいのかどうか。</p>
事務局	<p>マスタープランで今の基本目標の前に、都市づくりの基本姿勢というところを謳ってありまして、市民と行政が対話し、ともに育む都市づくりの1つ目の市民と行政の協働の中に、市民が主体となって検討し、地域のことは地域に住む人々が積極的に考え、責任を持って進めていくという考え方を前提に取り組むという中に、パートナーシップのルールづくりというところを書かせて頂いています。まちづくり条例を作りまして、市民の提案に対して宇治市が認定をして支援していくという、そういうふうな制度はもう作っております。</p>
委員	<p>このルールというのはできている。あるいは不十分だけでも、素地となるものがバージョン01はもうできているんだという前提でこれを読み替えるかどうかです。何となくまだルールもこれから作るというふうに読めないこともない、その辺りやはり事務局として、ルールはもうできている、これをさらに整理していきたい。また、その体制も曲がりなりにもありますという事をベースに、よりパートナーシップを基にして都市づくりを進めるという方向に今回は踏み出したいんだとそういう理解でいいですか。</p>
事務局	<p>はい。8地区でまちづくり協議会を認定して、そのうち3地区ではその計画まで作っていただいております。</p>
部会長	<p>14ページのところは抜本的に書き直さないと。前はこれ自身が新しかった。この宇治市の都市づくりマスタープランのポイントはむしろここにあった。14ページから16ページに向けて書いてあるやつが、基本的には宇治市のマスタープランの特色というか、売りだったわけ。だけど、それはもう20年たって定着してなきゃいけない。そうはいつてもやっぱりパートナーシップとか、地域の方が会話・対話しながら更新していく、あるいはそういう人口減少局面でのまたそれぞれの課題があるでしょう。こういう議論だとしたら、もう一度違う観点でやっぱり書き直さなきゃいけない。</p> <p>都市サービスというか、都市機能というか、そういったものの対応というか様子を共有しながら地域の方々と相談してより良い地域の将来像みたいなものを定期的に見直すみたいな議論が要るでしょう。そういった部分が、後ろのこの16ページのところの図みたいなものに反映させていくような図を作るっていう作業がメタなところ、ガバナンスの話は大事だと思うんです。今日は多分それを議論するほど準備ができてない。</p>

<p>委員</p>	<p>市民参加も含めてという形は、最近の多分都市計画のはやりの言葉で言うと、小さなプランニングとかって言う言葉でくられるような話だと思うんですね。そうするとパートナーシップのまちづくりもそうだし、それから、生活利便施設の維持っていうのもそうだし、それから、パートナーシップを格上げするっていうことも含めて、それは宇治らしさに入るといよりは、もう1つやっぱり何か、言葉が小さなプランニングがいいかどうかは分かりませんが、きめ細かいプランニングとか、やっぱりそういうのも柱としてあるかという気はします。あるいは、都市づくりの基本姿勢の2-4のところ反映してはどうか。</p>
<p>委員</p>	<p>この間の都市計画審議会で、これに関して質問が出た。かなりクリティカルに質問していて、結局これはパートナーシップの話だったんです。市民参加をどこまで本気でやるのか。前は市民参加が目玉だったんだというところを、その目玉だけがある意味しっかり記憶されていて、前回の目玉はなくなないだろうなという意図での質問だった。</p>
<p>委員</p>	<p>参加型にも問題はいっぱいあったし課題もあった。だから、この間に何をわれわれは学習し、何を進化させようとしているのかっていうところが本当は大事で、私は実はその1つとして、前は例えば客観的にどういうデータを使ってどう診断するのかというのは、情報を持ち合わせずにみんな議論していたんです。やっぱりこれからは特に伸びずにむしろ下がっていく中でどう選択するかということだから、この辺りは、出てきたデータを使って診断していくというふうなアプローチを使って、今は議論を前段階でやっている。</p> <p>今度は地区ごとの違いとか、選択っていうのが問題になってくる。だから、それはある意味で小さなことなんですけど、地区ごとにそれぞれがどんなふうを選び取っていくのかっていう積極的な関与が必要になってくる。その場合にはやっぱり客観的なデータとか診断というものをきちんと提示して、参加する人もその工夫に加わっていくぐらいの、そういうアプローチが多分これから必要になる。そういうことをきちっと言わないと、ワークショップも財産だけれど、ワークショップをつくりながらこれができて、そのベースをそのまま活かしているけども、今回はその延長線上でやっぱり参加型、パートナーシップは、よりリアルにどう説明するべきかと。そこにはいろいろな進化を求められているんだということをやっぴりきちんと書かないと、そうでないと一方的に参加、参加っていうふうに話になってしまうのも非常にまずいと思う。そうすると逆に、参加だということ、パートナーシップだということを言うためには、少ししっかり理論構成というか、そこをきちんとしないと、せっかく一生懸命まとめようとしているけれども、発散してしまう可能性がある。</p>
<p>委員</p>	<p>ネットワークを俯瞰して見たときにこういうことが必要だという議論と、さっきの具体的な歩いて暮らせる、移動できるという生活者目線の目線合わせが、できない感じのままのワークショップで終わったとそういう部分が出てきている。そういう意味でいくと、全部のデータが人数でしかないんですね。例えばこれを産業別に考えるんだとしたら、生産額ベースで考えないのかとか、結局都市計画的にアウトプットを何で見るかといったときに、人口の話ばかりしているので多分就業人数でやっていると思うんです。第2次産業、第3次産業で就業者数の割合ではなく、生産額でいくと半分ぐらいで第2次産業、第3次産業とイーブンだと思う。そういう視点がないと、人数だけの話ではまちづくりの話はできない。指標として何を判断基準にしたらいいいのかというところは、結構大事なのかなと思っている。</p>

<p>委員</p>	<p>成長型都市で整備していこうという計画から、どういう機能がその地域の中に維持されるのか診断がある。そこではお年寄りには住みにくいか、あるいは安全性は10点満点中3点とか、こういうのは診断かもしれません。危ないからこういう所にこんな施設は置いたらだめとか、そういうのも診断だから、それはジャッジメントが入る。その前の段階ではどういうレベルの土地、どういう特色を持った土地なのか、あるいは地域なのかというのを常に見ましよう。そこで私たちが見るべき内容は何なのか、それを問わなければならないが、それを今あまり言ってもでないという議論はある。だけど、そのことを探っていましようということを書くことはできる。そのサービスをどういうレベルのものをキープしておこう、あるいは向上させていこうかという議論。だから、そここのところの話を、デザインもあるし、逆に言うと仕様というのものもあるから、地域の人たちがデマンドとしてここまでないと困るんだという議論があったら、それはその地域はこういう地域にしましよう、こういうのとつながっていく話。だから、全体としてみてパイはこんな小さいから、ある所ばかりやってあげられませんかよねっていうのはやっぱりあるでしょうから、そのところが都市計画マスタープランになると思う。</p> <p>診断という言葉で書くのか、あるいはインデックス化と書くのか、サービス水準の評価と書くのか、あるいは質の評価とかでもいいんですよ。生活の質の評価とかでもいいですよ。産業の質でもいいんですよ。そういうふうなものをちゃんと入れながら進めていましようという議論だと思えます。全体としてはそれでいいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>不確定な要因がいっぱいある中で選択していかなければならないのだから、試しながら直していくという発想は絶対必要。適応しながら少しずつ手直して前へ進んでいく。そういう都市計画の仕方は、本来は前からあるわけだけど少なかった。これからはやっぱりそれが必要で、しかもそれに市民すら責任があるということ。だから、逆に言うとは何でも決められないけど、最後はやっぱり少しずつそういうふうの手直ししながら、仕組みも含めて改善していくことが必要だというのは、結構大事なメッセージじゃないかなというふうに私は思う。そういう合意ができればですけど、何でも決められないから、逆にどうやって手直しをしていくかということ、あらかじめある程度見通しを立てておきましようというメッセージが大事じゃないかなと思います。</p>
<p>部長</p>	<p>その修正のタイミングは、宇治市の総合計画と今回シンクロさせるんですよ。都市計画は基本的に20年、宇治市の総合計画は10年程度でしょう。それをシンクロさせるのは最小公倍数か、最大公約数か、そういうのに合わせるとして見直しを入れておけばいいということですよ。だから、そうすると例えばマスタープランが20年ということだったら、次の総合計画が変わるときに合わせて見直しができるようなタイミングで、住民の皆さんを巻き込んだ改正タイミングをつくっておく。そこに向けては必ず重視している指標とか、そういったものについて皆さんと共有をしながらここまでできました、ここをもっと改善しましようとか、何をこう変えましようとかということが対話できるような資料を準備する。そういう覚悟を示すというのが、この都市計画マスタープランのポイントだろうと思う。</p>

部 会 長	<p>今回の全体構想、原案のせめて 2-4 のところ、2-5 のところの枠組みを基本的に今日はせめてこれぐらいは合意してもらえとうれしいなと思ってはいるんですが、基本目標を 4 つに分けてこういう整理でいいですか。事務局は早急にこれを整理していただいて、各委員にお配りいただいて、必要なものがあれば追加、あるいは修正等をお願いしてください。それでその意見を集めてもらって、次に反映してください。</p>
委 員	<p>まちの現状と課題と、将来の人口予測、20 ページの将来の都市構造は、実はこれをこう書かないというのが今回のポイント。実はこの将来の都市構造は前に入れておかないといけない。何が言いたいかというと、現状の課題の中に「将来人口が減る」が入っていなければ、何を言っているか分からない。だから、それを入れ込んだ形で将来どんな問題が生まれてくるかが、実はこの 1 章のところデータとして読めるような図を準備するというのがポイントです。どういう課題が残っているか、重要か、それがちゃんと浮き彫りになるような図は間違いないように、誤解がないように。例えばさっきの 20 代がいなくなっているという図をベースに働く場所がないとは書いてはいけない。だから、どういう課題が宇治市にあるのかということ、将来を見越したベースで準備してもらいたい。</p>
部 会 長	<p>背景はむしろ人口が減っていったりとか、成熟社会に移っていったりとか、あるいは、ちょっとこれは背景として言っていないか分からないが、政策としては都市計画マスタープランが総合計画とリンクしなかったので、実行性に乏しかったというような話があり、それが背景にあって総合計画と整合性を図りますということ、今回のマスタープランの改定の目玉みたいなことを書くとしたら、そのぐらいのことを入れておく必要があると思います。構造的にはそういう理解をしているつもりなんですけど、ご意見があれば言ってください。</p>
委 員	<p>成長型から成熟型って言って、何となく分かるけど、こういう言葉って滑りやすいから、成熟型の中身をちゃんと日本語で正確に書く必要がある。その中身を書くときさっきサービスだとか、「診断」とかそういうことを書くべきだと思うんですよ。長いスパンで見たときに都市がどういう状況かみたいなのを書くべき。</p>
委 員	<p>少なくとも新しく、まだ決定もしていない産業立地促進拠点みたいなものを 3 つも並べておいて、本当にいいかという議論がある。都市計画マスタープランとしては、それだけは違っていますと言うんだったら、疑問が残る。だから、そこら辺のところの中に、8 つの協議会が提案されている話が少くらいその中で盛り込まれているとか、それから今までだったら例えば連携、ここのそれぞれの、いろいろ書いてあることを先取りしているっていったら先取りしている。</p> <p>拠点、公共交通をネットワークで結んで、それぞれ拠点ごとに役割を持たせて、都市計画マスタープランを作っているんだから、最初からネットワーク型のまちづくりをやっているといえやっている。だけど、拠点の役割が変容してきている。それはいけないと見るのか、それをいいと見るか。いいと見るのであれば、じゃあ名前が変わるという話ですよ。あるいは中身が違って来る。そういうところがどれだけしているというのが、やっぱりちょっとこの図の中に欲しくなるってということだと思うんですね。</p>

<p>委員</p>	<p>流れがこうだから慣性力でこうだと言えない部分が出てきているので、ある部分はこうならないといけないうというロジックを前に出さないといけない。土地利用はこうなっている、でもこの使い方は何通りかあるか分かんない。それをどうやって決めるのかというと、政治的リーダーシップで決めてしまう方向も1つ。もう1つは地区レベルでのそういうパートナーシップがある程度それを促すことにもなる。だから、そういう意味の、そういう選ばれ方を含めての選択肢はやっぱり少し、複数用意する。そのために土地利用はどうなるんだろうという見直しを出すというのは、1つ大事なアプローチになると思う。</p> <p>一方である程度やっぱり規制せざるを得ない。これは何となく、自主性に任せましょうだけではなくて、これは必ずしも災害だけではないですけど、ある種のいんなりリスクが伴うものについては、規制をある程度掛けましょうとか、こういう情報は公開するとか、そういう部分ももう1つないと、こういう質の問題になるところでの選択というのがうまくいかない。だから、規制の話もやっぱりきちんと入れざるを得ない。1つは例えば災害なんかの場合は多分そうなのかどうかということも含めて、それはわれわれも少しアドバイスをしなければならぬかもしれないですけども、そういう今までと少し違う提示の仕方が必要。</p>
<p>委員</p>	<p>多分重層的な図を描くということだとは思いますが。だけど、今までと違うのは背景の情報が重要なんですよ。要は結果だけ書いているでしょう。要するにここは何々ゾーン、何々ゾーンって書いてある。ここは市街地です。ここは道路で結びますとか、そういうことをいっぱい書いているんだけど、そういう結果の図よりも恐らく状況の図みたいなものをこの図にして、だからこうなんだと示す。だから災害の観点で見れば、こういう水害の水ってこんなふうになっていて、だからここら辺は居住誘導地域に指定しないというような事が分かる図とか、そういうような話が必要ではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>人口減少下において使うべきその都市計画の手法っていう議論の中で、用途地域とか、そういうような議論だけかという事はあると思います。だから、限られた手法の中で何か議論していくとすればこうかなぐらいの話の前提で議論をしているけど、都市の拡大を防止するために設置しているような都市計画区域は、もう要らぬのではないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>市街化調整区域として、宇治市の場合は開発圧力が一定まだあるという中で、なかなかその線引きをなくすのは、一定のルールがないと、どんどん拡大していってしまうというところはございますので、どういった形で誘導していくかというのは、もう少し慎重に考える必要があるのかなと思っております。</p>
<p>委員</p>	<p>総合計画とどう関わりがあるかっていうことと、もう1つは、今度は京都府なら京都府というレベルでの整合性をどう取るのかという、そういう力学的な問題もあって、事務局もいろいろ考えられているんだと思いますけど、ただ、何かどこかだけが突出して、強調されてしまうと、懸念が出てきますので、その辺を色々工夫する必要があると思います。</p>
<p>委員</p>	<p>赤字とかで追加されているのを見ていると、前回から引き継がれている内容があるからということもあるんですが、どちらかという将来的な計画というよりは、半分ぐらいは現状の追記に近いような感じに読めてしまう。</p>
<p>委員</p>	<p>全体を見たら後ろで分野別に土地利用、交通など展開している。それを総合したら将来都市構造図になるんですね。</p>

委員	<p>今の計画で拠点は地域の特徴付けだった。それぞれ地域とか、広域とか、産業とかって書いてあるけども、広域っていうのは商業機能も交通結節点の機能の両方ありますよっていうのが広域拠点だった。そういう各拠点の機能に着目して、丸を付けているわけです。何か置きますと言っているわけではないです。そこに新しい産業を誘致する場所を何とか拠点とかいってつくって置くというのは全然レベルが違う話。産業政策で仮にもう 1 枚ページを作って、そこに書くっていうのは分かる。全部書くからこうなりましたというのはまだ分かる。</p>
部長	<p>基本的には今の流れで、ここの続きの部分を準備いただくけれども、レベル分けのところを意識していただいて、産業を特出ししたかったら別に書いて、そういう形でご準備いただきたいと思います。</p>